

## 令和8年度第1回まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議の主な意見

日 時： 令和8年8月7日（金）10：30～12：00

場 所： 安芸太田町役場 大集会室

出席者： 15人中10人

### ■施策評価について主な意見

#### 人口ビジョンについて

##### 【委 員】

- ・社会動態について、令和3年及び令和6年に大きな変動が見られるが、その要因を把握しているか。
- ・空き家バンクの成約件数はやや減少傾向にある一方、移住者数は世帯数で20世帯を超えており、前向きな傾向として捉えられる。

##### 【 町 】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響による人の移動の変化も考えられるが、明確な要因は把握できていない。
- ・社会動態は住民票の異動時期によって年度ごとの数値にばらつきが生じるため、単年度でなく、5年程度の期間で傾向を確認する必要がある。社会動態の年平均は、平成22年から平成26年までが約57人の減少、平成27年から令和元年までが約35人の減少、令和2年から令和6年までが約25人の減少となっており、社会減の幅は縮小している。
- ・一方、出生数は、平成22年から平成26年までの年平均約32人から、直近5年間では年平均約14人まで減少しており、自然減への影響が大きくなっている。社会動態は一定程度改善しているものの、出生数の減少が続いていることから、子育て世代の移住・定住を促進する施策を進めている。

#### 定住促進賃貸住宅「もりみんハイツ」について

##### 【委 員】

- ・もりみんハイツ及び新規移住者について、入居後に町外へ転出する可能性や、年間の転出状況、転出理由を把握しているか。

##### 【 町 】

- ・もりみんハイツは令和7年4月の供用を開始し、これまでに1世帯が家庭の事情により転出した。その後に新たな入居があり、その他の世帯は引き続き居住している。入居期間は原則5年であるため、退去後も町内に住み続けてもらえるよう、住宅取得などへの働きかけを検討していく。
- ・町では、住宅建築に適した土地を把握するための適地調査を進めている。調査結果を踏まえ、必要に応じて造成や宅地分譲も含めた対応を検討し、町内定住につなげたい。

## 要介護認定率について

### 【委 員】

- ・要介護認定率を 25%以内とする目標について、目標を達成するために、認定区分を実態より低く判定するような運用につながることはないか。

### 【 町 】

- ・要介護認定率 25%以内という目標は、介護サービスの利用を制限する意味ではない。介護予防事業の取組を進め、できる限り介護度が上がらず、住み慣れた地域や在宅で暮らし続けられることを目指している。

## 避難行動要支援者対策について

### 【委 員】

- ・避難が困難な人の情報について、民生委員・児童委員としてどのように関わればよいのか分かりにくい。地域で支援が必要な人を把握し、適切な避難支援につなげる体制を整えてほしい。

### 【 町 】

- ・避難行動要支援者は町全体で約 400 人おられ、一度に全員を対象に個別避難計画を作成するのではなく、特に避難が困難な人を優先して作成を進めている。計画は防災アプリ「防災もりみん」で管理し、支援に必要な情報を関係者間で共有する仕組みとしている。今後、民生委員・児童委員にも必要な情報を提供し、地域と連携した避難支援体制の充実を図る。
- ・「防災もりみん」では、個別避難計画をシステム上で一元管理し、福祉専門職等が平時から情報を更新・共有する体制を構築している。今後は、福祉専門職等の操作習熟度の向上に加え、地域住民や支援者との協力体制を整え、実効性のある避難支援につなげる必要がある。

## 太田川の水質検査について

### 【委 員】

- ・ダムからの戻り水が黒くよどんで見える原因について、河川環境への影響を含めて確認してほしい。

### 【 町 】

- ・令和 7 年 10 月に、立岩ダム上流部、打梨発電所の戻り水がある箇所及び役場前の太田川の 3 か所で採水し、水質調査を実施した結果、河川環境は基準値内で良好との結果を得た。しかし戻り水が黒く濁る時期を捉え、再度調査を行い、原因を確認していく。

## 避難所の環境整備について

### 【委 員】

- ・災害時の避難所における暑さ・寒さ対策や、停電時の電源確保はどのようなになっているか。

### 【 町 】

- ・町職員が運営に当たる広域避難所は町内に4か所あり、修道活性化センターは、暑さ対策としてスポットクーラーと大型扇風機を配備している。
- ・川・森・文化・交流センター及び役場東館大集会室などは、既存の空調設備を利用することとしている。
- ・役場東館には非常用電源設備があり、その他の施設にはガソリン発電機を備蓄している。現状では十分でない部分もあるため、計画的な整備が必要と考えている。

## ICT活用による「学び」の充実について

### 【委 員】

- ・「授業の内容が分かる」ということと、理解していることは別ではないか。
- ・学力の面でICT活用による効果について教えてもらいたい。

### 【 町 】

- ・「授業の内容が分かる」と回答した児童生徒の割合は、全国学力・学習状況調査の設問を用いた指標であり、調査対象は小学6年生と中学3年生で毎年異なるため、年度ごとの数値には差が生じるが、ICT活用を学力につなげる状況を把握する指標として設定している。
- ・ICT支援員の支援のもと、視覚的に分かりやすい授業づくりを進めている。成果は単年では表れにくいですが、令和7年度に更新した端末も活用し、ICT活用の成果が成果指標に反映されるよう取り組む。

## 道の駅再整備と町内周遊について

### 【委 員】

- ・道の駅の再整備には非常に期待している。道の駅の再整備をいかに観光に結びつけるかを議論することが重要ではないか。

### 【 町 】

- ・道の駅のリニューアルはゴールではなく、道の駅を起点として周辺観光地への誘客につなげることが重要と認識している。
- ・周観光地の情報や二次交通など、様々な観点から案内機能の充実に取り組む。
- ・民間の運営事業者や地域商社との連携を強化し、道の駅の集客効果が周辺に及ぶようエリアの回遊性を高めていく。